

「おとふけ」の 伝承

私たちのふるさと「おとふけ」。先人たちの労苦があり、いま、私たちの住む「おとふけ」がある。広報おとふけでは、音更町に根をおろし、ふるさとを築いてきた人たちの後世に語り継ぎたいお話しを紹介していきます。



國枝 昭さん
昭和2年11月18日生まれ。
十勝川温泉在住

私の生い立ちと 小学校の思い出

私

は現在も暮らす十勝川温泉地域で生まれました。当時、自宅は旧かんぼの宿が建つ場所にあり、父母や祖父母は米作りの専業農家で、温泉を利用した苗作りにより成果を上げていきましたが、昭和14年、国の方針でこの地に十勝川温泉郵便局が開局、父が初代局長になったため、家業の農業は祖父母中心に代わりました。

小学生の頃は、夏にドッジボールをして遊び、冬はスキーで通学しました。また、運動会では、十勝川の対岸にある幕別町の白人小学校と互いに渡船で行き来をしていました。懐かしい思い出です。

富山県で過ごした 旧制中学校時代

下

士幌小学校を卒業し、高等科を出てから富山県立上市農林学校に進学しました。当時、富山から来た売薬さんが私の家を拠点に近所を回っていて「ここからの通学は遠くて大変だ。自分の家の近くに学校があるから富山へ来ないか。」と誘ってくれたことがきっかけです。初めて親元を離れ、自分のことは自分でやる生活を通して自立心が芽生えるなど、このときの経験が後の人生に大きく影響したと思います。

獣医師を目指して

当

時はトラクターもなく馬耕農業が盛んで、私の家にも馬が7、8頭いました。家畜が病気になるのと獣医さん呼んで治療ののを見かねたら、「自分も大きくなったら、バイクに乗って助けに行つてあげたい」と思うようになりました。

昭和20年4月、帯広畜産大学の前身である帯広獣医畜産

人生の転機と 温泉地域の変遷

卒

業時は戦後の混乱期のため、希望する就職先もなく、適職が得られるまでのつなぎのつもりで、郵便局の欠員後補充として手伝っていました。これが40余年の生涯をかける仕事になるなど考えてもいませんでした。父の退職を機に、昭和46年6月、2年間勤務した新得町から局長としてこの地に転任しました。

地域に恩返しを

平

成7年、私は67歳で退職しました。地元郵便局だからこそできるサービスを提供するため何事も精一杯やる。そのことが地域のためにもお客様のためにもなるのだという気持ちを強く持つて生きてきたつもりです。幸い地域やお客様とのつながりに支えられ、すばらしい環境で働くことができ満足です。

妻と同じ趣味を、と始めた水彩画を楽しみながら、体が続く限り、私を育ててくれた地域のために、ささやかながら恩返しを続けていきたいと思っています。



父、修一氏が初代局長を務めた十勝川温泉郵便局（昭和14年撮影）